令和６年度　第２回　部活動の地域移行のあり方検討委員会　議事要旨

令和６年 12 月 19 日（木）15：00
神戸市総合教育センター701 号室

１．事務局説明

・教育長会見の資料をもとに説明。
・コベカツクラブ第１回募集…2025 年１月 16 日（木）～2 月 16 日（日）
・2026 年８月に神戸市立中学校の部活動は終了。9 月よりコベカツ開始。
・「キービジュアル」の紹介。コベカツ専用ホームページの説明。
・コベカツクラブの方針、コベカツクラブ募集要領、登録・申請方法（e-Kobe）

２．各委員による意見等

（委員）地スポとコベカツは併存することになるのか。地スポはコベカツに登録できるか。
→（事務局）外観は併存した形になる。地スポは小学校の施設中心、コベカツは中学校施設を中心に活動。地スポが母体でも、コベカツに登録できる。研修や登録更新は行っていただく。
（委員）例えば吹奏楽について言うと、楽器の維持だけでも経費がかかる。備品の維持について神戸市の補助は考えられないのか。
→（事務局）学校・神戸市の資産として、修理や維持をしていく方向を考えている。
（委員）高校の施設は活動場所として使用できるか。
→（事務局）施設の使用許可は学校長の判断による。今後の制度設計が必要と考えている。
（委員）移行期間での対応は、現小６と現小５に配慮されたスケジュールになっている。
（委員）全体を統括するような、組織とか団体の大きな傘をかぶせるようなところが必要
（委員）文化活動においては、ある程度営利目的でやっている。きちっとした形で示す方が良いのではないか。
→（事務局）従来の教室や講座とコベカツの違いは、「低廉なお金で…。」というところになる。
（委員）民間の文化的な教室が、入門編みたいな形でエントリーしているところもある。
（委員）近隣の中学校で統合して、コベカツに移行するための受け皿を作っていく取り組みを、須磨区では令和７年度から独自の取り組みを進めている。他の区では、保護者・PTA・学校運営協議会の協力を得ながら、活動機会を増やそうとしているところもある。
（委員）現小 6、現小５は、入学後どこへ所属したらいいのかという不安をもっている。
（委員）区によっても地域によっても温度差がある。それぞれの学校で、こうしたら新入生に説明できるということをお願いしたい。
（委員）専用ホームページは「分かりやすい」という声を多く聞いている。一方では、「地スポは、中学生の受け入れは難しい。」という声や、「保護者に負担を押し付けるのか。」という声が多い。

→（事務局）保護者負担については、委員会としても最大限考えている。費用に関しては、国に要望する。

（委員）中体連の各競技部と話をする機会を作り、大会運営の道筋をつけていかなくてはと思う。

→（事務局）コベカツは教員の立場ではないので協会の方で新しい形を模索していかなければ、これまでのような顧問は存在しないので、教員が無償で審判までしてということは難しい。

（委員）大会を目指している親子も結構いる。そこに不足が起こらないようお願いしたい。

→（事務局）それぞれの競技団体が考え、スポーツ協会自身が各競技団体と積極的に考えていただく。

（委員）予算や体制の問題が出てくる。中体連との話し合いをして、一緒に構築を考えている。

（委員）教員が現在勤務している学校のコベカツに入って担当するのは構わないかと思うが。

→（事務局）教員としてではなく、地域の方という立場で参加することを検討している。

（委員）今の勤務校でスタートしたいという希望が出たら、そこは添ってあげたいと思う。

→（事務局）やりたくない教員が、地域や保護者から頼まれたら断りにくいという状況も起こる。

（委員）今日紹介のあった各市内団体、これはどうやって発掘されたのか。

→（事務局）団体の方から問い合わせがあり、積極的にアポを取って来てくれた。

（委員）クラブで何か問題、トラブルがあった時の窓口はどこになるのか。

→（事務局）基本的にはその団体が解決していく。当面は教育委員会が指導をしていく。学校に情報は入るかもしれないが中心となって指導する立場ではなくなる。